

世界の言語における 長短母音の分布について 4

佐藤 努

1. はじめに

世界の言語において短母音と長母音の音素的対立を持った言語がどのくらいあるのか、また、どのように分布しているのかを明らかにしようとすることを目的とし、佐藤（2013）以降、一連の調査を続けている。資料としては、一定数の世界言語を収録した亀井 他（編）（1988～1993）『言語学大辞典』の中の第1～4巻 [世界言語編]、および、第5巻 [補遺・言語名索引編]を参照し、4回目の報告となる本論文では第4巻（1992）、および第5巻（1993）の調査結果を報告する。後述するようにさらに取り組むべき課題があるが、本資料の収録言語における分布数についての調査報告は今回で完結する。

調査基準、結果の表記についてはこれまでと同様で、次のセクション2に述べる。3において、語族ごとの長短母音対立を含んだ言語が提示され、続く4においては今回明らかになった66言語についての考察、そしてこれまでの調査結果の合計292言語における語族ごとの実数や主な地域についての言及を行う。終わりに、使用した資料についての問題点と今後の課題が5で述べられる。

2. 基準, および表記

長短母音音素対立を資料内で確認するにあたって、以下の基準を設けている。

- (i) 見出し語に限定し、語族や語派が見出し語になっているものについては除外した。また、死語となったもの、およびピジン・クレオールも含めないこととした。
- (ii) 見出し語に関する音韻記述のなかで、はっきりと「長短による対立がある」と述べているものと、母音体系が記載され、そこで用いられている発音記号から判断して対立が認められるものを抽出した。

結果の表記についてもこれまでと同様である。言語の日本語名、括弧内に英語名、使用されている国や地域、話者数、母音数、巻と該当ページ数の順に記述する。話者数の表記は資料に記載されたままを引用し、資料で参考にされている原著の発行年が複数ある場合はより新しい年号のものを選び、原著の詳細については省略した。母音数の括弧内の数字は、すべての母音に対立がない場合の対立がある母音数を表している。たとえば、7(5)とあれば、短母音の合計数は7で、そのうちの5母音のみに長母音との対立が認められる場合を意味する。また、短母音と長母音が完全に対応しない例で、短母音数が7、長母音数が11という例では、7/11のように表すものとする。鼻音、緊喉などの対立については言及せず、母音数の合計を数える上でも考慮していない。該当ページは母音の記述の記載があるページを示しており、たとえば、IV-145であれば、第4巻の145ページを指す。

3. 結果

各語族のタイトルの直後に第4巻から抽出された言語数を示す。第5巻からの例があった場合はその右に続けて+抽出数、および合計数を加えた。

I. インド・ヨーロッパ語族 (3+1=4)

インド・イラン語派

インド語派

- (1) マラーティー語 (Marathi) インド共和国 4,280 万人 7(5) IV-145

イラン語派

- (2) ザザ語 (Zaza) トルコ 300 万人以上 10(8) V-162

バルト語派

- (3) ラトヴィア語 (Latvian) ソ連邦ラトヴィア共和国 134 万人 (1979) 6
IV-688

- (4) リトアニア語 (Lithuanian) ソ連邦リトアニア共和国 271 万人 6
IV-760

II. ウラル語族 (1)

フィン・ウゴル語派

- (5) マンシ語 (Mansi) ロシア共和国 3,140 人 (1989) 6 IV-201

III. アルタイ語族 (2)

モンゴル諸語

- (6) モンゴル語 (Mongolian) モンゴル人民共和国, 中国内蒙古自治区
500 万人余 7 IV-502

- (7) モンゴル語 (Monguor) 中国 十数万人 (推定) 5/6 IV-493

IV. カフカース語族 (2)

北東カフカース諸語

- (8) ラック語 (Lak) ダゲスタン自治共和国 8万6千人 6(3) IV-666
(9) ルトゥル語 (Rutul) ソ連邦アゼルバイジャン共和国, ダゲスタン共和国
19,329人 (1989) 5 IV-948

V. ドラヴィダ語族 (1)

南部ドラヴィダ語派

- (10) マラヤーラム語 (Malayalam) インド共和国 21,938,760人+140万人
9(5) IV-152

VI. オーストロネシア語族 (12+2=14)

西部オーストロネシア語派

- (11) パゼッヘ語 (Pazeh) 台湾 1~2名 (1991) 4 V-302

東部オーストロネシア語派

- (12) ラパヌイ語 (Rapanui) チリ共和国ラパヌイ (イースター) 島 約1,300人
(1983) 5 IV-695
(13) ラロトガ語 (Rarotongan) クック諸島 約5万人 5 IV-705

オセアニア語派

(中) 核ミクロネシア諸語

- (14) モキル語 (Mokilese) ミクロネシア連邦モキル環礁 約1千人 6(5)
IV-440

トラック諸語

- (15) モートロック語 (Mortlockese) ミクロネシア連邦モートロック諸島

6千人 9 IV-466

ヘスペロネシア語派

中央フィリピン諸語, 中部フィリピン語群

- (16) リンコナダ・ビコル語 (Rinconada Bikol) フィリピン 約18万人
(1975) 4 IV-900

北ビサヤ小語群

- (17) マスバテ・ソルスゴン語 (Masbate Sorsogon) フィリピン
約8万5千人 3 IV-76

ポリネシア諸語

東部ポリネシア諸語

- (18) マオリ語 (Maori) ニュージーランド共和国 10万人程度 5 IV-17

中核ポリネシア語群

- (19) キリバス語 (Kiribati) ギルバート諸島 約5万人 5 V-120

サモイック・外位ポリネシア語群

- (20) マエ語 (Mae) ヴァヌアツ共和国 726人 (1979) 5 IV-11
(21) メレ・フィラ語 (Mele-Fila) ヴァヌアツ共和国 (話者数記載なし) 5
IV-430
(22) レンネル語 (Rennellese) ソロモン群島 約2,400人 5 IV-1018

メラネシア語派

バプア諸語

- (23) マイシン語 (Maisin) パプアニューギニア 約2千人 5 IV-7
(不明)
(24) ヤップ語 (Yapese) ヤップ諸島 5千人ほど 8 IV-555

Ⅶ. オーストロアジア語族 (4)

モン・クメール語族

パラウン語派

- (25) ラメート語 (Lamet) ラオス 約6千人 9 IV-703

南バナル語派

- (26) ムノン・ロロム語 (Mnong Ro'lo'm) ヴェトナム 約4千人 11(4)
IV-352

西バナル語派

- (27) ラヴェン語 (Laven) ラオス 約2万人 10 IV-649

北バナル語派

- (28) ルガオ語 (Rongao) ヴェトナム 約1万人 5(3) IV-931

Ⅷ. ニジュール・コンゴ語族 (5)

マンデ語派

- (29) マンデ語 (Mande) ガンビア, ブルキナファソ, マリ, セネガル, ギニア, コートジボワール, シエラレオーネ 500~600万人以上 (1983)
7 IV-218

- (30) メンデ・バンディ語 (Mende-Bandi) メンデ語 シエラレオーネ
130万人 (1983), バンディ語 リベリア 7万人 (1978) 7 IV-434

グル語派

- (31) モシ語 (Moshi) ブルキナファソ 約170万人 (1983) 7 IV-452

ベヌエ・コンゴ語派

バントゥ諸語

- (32) ヨンベ語 (Yombe) ザイール共和国 (話者数記載なし) 5 IV-642
(33) ルバ語 (Luba) ザイール共和国 数百万人 5 IV-950

IX. アフロ・アジア語族 (1+1=2)

グラゲ諸語

クシ語派

- (34) レンディール語 (Rendille) ケニア 約1万5千人 5 IV-1012

オモ語派

- (35) アリ語 (Ari) エチオピア 10万人程度 5 V-27

X. チャリナイル語族 (5)

ナイルサハラ言語群

西ナイル諸語

- (36) ランゴ語 (Lango) ウガンダ 363,807人 (1981) 5 IV-712
(37) ルオ語 (Luo) ケニア 1,148,335人, タンザニア 約5万人, ウガンダ
37,648人 (1981) 5 IV-926

南ナイル諸語

カレンジン語群

- (38) マルクウエタ語 (Markweta) ケニア 66,965人 5 IV-174

東ナイル諸語マア方言諸語

- (39) マサイ語 (Maasai) ケニア 154,079人, タンザニア 103,000人 (1981)
5 IV-60

マバ言語群

- (40) マバ語 (Maba) チャッド 56,782人 (1956) 5 IV-11

XI. アメリカンディアン (15+6=21)

北米インディアン

- (41) カロック語 (Karak) アメリカ 約100人 5(3) V-113

ユーキ語族

- (42) ユーキ語 (Yukian) アメリカ 2名 (1970年代) 6 IV-598

スー・ユーチ語族

- (43) ユーチ語 (Yuchi) アメリカ 約35名 (1973) 7 IV-615

ツィムシアン語族

- (44) 海岸ツィムシアン語 (Coast Tsimshian) カナダ, アメリカ (アラスカ)
約1,440人 5(6) V-72

セイリッシュ語族

- (45) コモックス語 (Comox) カナダ 400人 (1983) 5(2) V-151

ワカシュ語族

- (46) ニティナト語 (Nitinaht) カナダ 30人以下 5 V-259

ユーマ語族

- (47) ワラパイ語 (Walapai) アメリカ 1,506人 (1989) 6 V-488

中米インディアン

- (48) マトラツィンカ語 (Matlatzinca) メキシコ 1,800人 (1970) 7
IV-99

- (49) ラマ語 (Rama) ニカラグア 23人 (1985) 3 IV-700

- (50) クナ語 (Cuna) パナマ, コロンビア 36,422人 (1987) 5 V-130

マヤ語族

- (51) ユカテック語 (Yucatec) メキシコ 665,377人 5 IV-591

高地西マヤ語群

- (52) マム語 (Mam) グアテマラ 約44万人 (1973) 5 IV-117

- (53) モトシントレック語 (Motocintlec) メキシコ 5 IV-464

低地北マヤ語群

- (54) ラカンドン語 (Lacandon) メキシコ 約300人 6 IV-657

ユート・アステック語族

タラカイト語群

- (55) マヨ語 (Mayo) メキシコ 56,387 人 5 IV-130

タキック語群

- (56) ルイセーニョ語 (Luiseno) アメリカ 100~200 人 5 IV-917

ミスマルバ小語族

- (57) ミスキート語 (Miskito) ニカラグア, ホンジュラス 66,994 人 (1981)
5 IV-284

ミヘ=ソケ語族

- (58) ミヘ語 (Mixe) メキシコ 74,083 人 5 IV-325
(59) ミヘ・ポポルカ語 (Mixe Popoluca) メキシコ 3,300+120 人 (1970)
6 IV-335

アルギック語族

- (60) メノミニ語 (Menomini) アメリカ 300~500 人 (1965) 6 IV-412
(孤立)
(61) ルトゥアミ語 (Lutuami) アメリカ 50~60 人 (1981) 4 IV-943

XII. シナ・チベット語族 (1+3=4)

南西タイ語系

- (62) ルー語 (Lue) 中国 約 20 数万人 9(1) IV-906
(63) グルン語 (Gurung) ネパール 174,464 人 (1981) 5(1) V-138

チベット・ビルマ語族

- (64) リンブ語 (Limbu) ネパール 129,234 人 (1981) 6/7 V-422
(65) ルシャイ語 (Lushai) インド 221,985 人 (1961) 5 V-450

XIII. ヒマラヤ諸語 (0)

XIV. アラワク語族 (0)

XV. 古アジア諸語 (1)

(66) ユカギール語 (Yukaghir) ソ連邦 375人 (1989) 8(4) IV-584

4. 考 察

第4巻から53, 第5巻から13, 合計66言語について長短母音音素対立に関する記述が認められた。最も多かった語族はアメリカンディアン語族の21, 次いでオーストロネシア語族の14, ニジュール・コンゴ語族とチャリナイル語族の5という順になり, 他はそれ未満の結果だった。ヒマラヤ諸語, アラワク語族からの抽出数はなく, また, 新たな例を含んだ語族としてはユカギール語の古アジア諸語が挙げられる。

第1巻, 2巻, 3巻 (佐藤 2013, 2014, 2015), および本論文で明らかにされた第4巻と5巻からの抽出数を主な語族ごとに左から順に示すと以下のようなになる。

I. インド・ヨーロッパ語族	3/7/3/3/1=17
II. ウラル語族	1/1/3/1/0=6
III. アルタイ語族	5/2/1/2/0=10
IV. カフカース語族	3/3/1/2/0=9
V. ドラヴィタ語族	1/2/0/1/0=4
VI. オーストロネシア語族	22/22/30/12/2=88
VII. シナ・チベット語族	0/1/0/1/3=5

VIII. オーストロアジア語族	9/10/5/4/0=28
IX. ニジュール・コンゴ語族	5/4/0/5/0=14
X. アフロ・アジア語族	6/7/6/1/1=21
XI. チャリナイル語族	10/10/7/5/0=32
XII. アメリカインディアン	9/14/10/15/6=54

これらの合計は 288 言語となり、その他としては、ヒマラヤ諸語（佐藤 2014: 108）、アラワク語族（佐藤 2015: 113）、古アジア諸語（本論文）からそれぞれ 1 言語ずつ、そして日本語（佐藤 2014: 108）の合計 4 言語が加わり、本調査から得られた「長短母音音素対立」を有すると考えられる言語の合計は 292 言語となった。各巻ごとの内訳は、第 1 巻 74, 第 2 巻 85, 第 3 巻 67, 第 4 巻 53, 第 5 巻 13 である。抽出数の多かった語族の上位は、オーストロネシア語族 (88), アメリカインディアン (54), チャリナイル語族 (32), オーストロアジア語族 (28), アフロ・アジア語族 (21) の順となり、北米・中米, 環太平洋, アフリカ, 東南アジアなどの地域を含む結果となった。佐藤 (2013: 76-77) で述べた通り、本資料の各言語に対する記述項目, 記述量にはかなりの差があり、また、母音記述についてもその有無があったり、表記法についてもまちまちである^(注)。

これらの問題点をふまえた上で得られた結果、総数である。

5. 課題

三省堂による亀井 (1988~1993) を紹介したパンフレットからの情報によると、本調査の資料として使用した第 1 巻から 4 巻までの収録言語数は約 3,500, 第 5 巻の言語数は 100 余とされているが、佐藤 (2013: 76) でも指摘した通り、どのようにしてこの数を算出したのかが不明である。また、第 4 巻の巻末に収

められている編修後記にある以下の記述、すなわち「…この補遺と言語名総索引から成る第5巻の刊行後に、本来の意味での「世界言語編」は完結することになる。現在、その作業は進行中であり、これが完成すれば、われわれは、1991年現在判明している世界の言語の目録を手にすることになる。その数は、8千を超える見通しである。」の中にある「8千」と上記の3,600とは大きく異なっている。

本資料の問題点は、4. 考察でも述べている資料中の各見出し語についての母音記述の有無があったことと、それに加えて、とりあげられている各語族に属する言語の内訳が明らかにされていないことである。第5巻に言語名索引があるが、各言語が属する語族や語派についての記述の有無や詳細に関して一貫性を欠いている。全巻を通して収録した言語を語族ごとに分類しているような項目はなさそうである。現在、言語名索引と各巻を確認しながら各語族のそれぞれの実数とその内訳を明らかにする作業を行っている。たとえこの作業が完結しても、各語族に本来属する言語すべてが本資料において扱われてはいないと思われるが、資料内の各語族言語数が明らかになった上で、本調査から得られた結果についてさらなる考察を行いたい。具体的には、母音体系や、ピッチ・アクセント、強勢、声調などの語レベルの特徴、開閉音節などの音節構造との関係についてである。

注

- (1) この点に関連して、各巻の冒頭に付せられている凡例中の 0. 記述の態度、項目 0.8 には以下のように記されている。「…また、項目あるいは執筆者によって、用語法や記述法が必ずしも一致しない場合もある。こうした、立場や解釈のちがいに起因する記述のずれは、それ自体が研究の現状の正確な反映であり、その意味において、それらの統一をあえて行わなかった場合がある。…」

参考文献

- 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1988）『言語学大辞典 第1巻 世界言語編 上 あ～こ』三省堂 (*The Sanseido Encyclopedia of Linguistics* Volume 1 Languages of the World, Part One)
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1989）『言語学大辞典 第2巻 世界言語編 中 さ～に』三省堂 (*The Sanseido Encyclopedia of Linguistics* Volume 2 Languages of the World, Part Two)
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1992）『言語学大辞典 第3巻 世界言語編 下1 め～ほ』三省堂 (*The Sanseido Encyclopedia of Linguistics* Volume 3 Languages of the World, Part Three)
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1992）『言語学大辞典 第4巻 世界言語編 下2 ま～ん』三省堂 (*The Sanseido Encyclopedia of Linguistics* Volume 4 Languages of the World, Part Three)
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1993）『言語学大辞典 第5巻 補遺・言語名索引編』三省堂 (*The Sanseido Encyclopedia of Linguistics* Volume 5)
- 佐藤努（2013）「世界の言語における長短母音の分布について 1」『英米文学・英語学論叢』第128号 75-86 明治学院大学
- 佐藤努（2014）「世界の言語における長短母音の分布について 2」『英米文学・英語学論叢』第129号 99-111 明治学院大学
- 佐藤努（2015）「世界の言語における長短母音の分布について 3」『英米文学・英語学論叢』第130号 105-117 明治学院大学